

「顔の見える関係」から「手をつなぎ合える関係」をめざして

ことう地域チームケア研究会 たより

令和5年7月31日発行

つながろう 話そう
ハイブリッド de 研究会

第62回 ことう地域チームケア研究会を開催しました

- ◆開催日時:令和5年7月13日(木) 18:30~20:30
- ◆参加者:94名(医療関係31名、福祉関係33名、行政・その他30名)

「排泄の話」

【担当世話人団体】 湖東健康福祉事務所

☆今回のねらい

- ① 排尿プロジェクトの概要と排尿支援員の活動内容を知ろう。
- ② 排泄支援の困りごとを共有し、解決方法を見つけよう。
- ③ 地域住民の排泄の相談が解決できるよう、多職種・多機関がつながりましょう。



今回、はじめて研究会で「排泄」をテーマに開催されました。もりだくさんな内容で、おなか一杯の情報をいただきました。
会場にもたくさんお越しいただき、初めて参加して下さる方や徐々に会場に来て下さった方々等々、あちらこちらで挨拶が交わされ、以前の活気を感じました。

【情報提供】「滋賀県の排尿支援に関する取組について」

滋賀県健康医療福祉部医療福祉推進課 久保 亜紀 氏



排泄に関する現状(①~③令和元年度滋賀の医療福祉に関する県民意識調査結果)

- ① 1年以内に尿失禁を経験している者の割合
25.5%(男性:15.2% 女性33.2%)
- ② 尿もれがあった者のうち医療機関へ受診している者の割合
11.2%(男性:19.6% 女性8.2%)
- ③ 尿もれは治療できるものではない・年のせいなので仕方ないと思っている者の割合
64.3%(男性:68.6% 女性62.8%)
- ④ おむつや排せつに介助が必要となった後の心身の変化(北九州市調査)
身体機能の低下(45.6%)外出機会の減少(28.6%) 認知症の増加(28.2%)

4人に1人が尿もれを経験し、6割は諦めている現状



- 相談-受診-治療に繋がっていない。
- 尿失禁・便失禁により、自己嫌悪に陥ったり自信を喪失する。
- 排泄障害により、活動の幅が狭くなり、社会参加の機会が少なくなる。

滋賀県 排泄支援プロジェクト 2019年(令和元年)~

彦根市・湖東圏域はモデル地域

☆目標:誰もが気持ちよく排泄できることにより、QOL(本人の望む暮らし)の維持向上を図る。

排泄支援に向けた予防・医療・ケア体系の構築

- ◆ QOLの維持向上を目指したセルフケア能力の向上にむけた取組
【取組】① 排尿サポーター(排尿に関する身近な理解者)の育成
② 住民啓発
③ 男性トイレ等へのサンタリーBOXの設置と表示
- ◆ 相談支援体制の充実
- ◆ QOLの維持・向上を目指した支援の質の向上にむけた取組
【取組】① 排尿支援員の育成
② 排尿支援リーダー情報交換会
- ◆ 確定診断・早期治療・対応のための連携強化を目指した取組



彦根市は令和3年より排尿サポーター育成のモデル市となり取り組んできています。また排尿支援員育成は、湖東圏域一市四町で進められてきました。

「排尿支援員(排尿に関する身近な相談者)の活動内容の報告」

☆リハビリ職 作業療法士 小野邦明氏 (彦根中央病院)

- ◆職場内(同職種内)で排尿支援研修の内容について共有。(圏域の職能団体内でも研修を計画したがコロナの為できなかった)
- ◆排尿の視点でアセスメントを行い、リハメニューに取り入れた。
- ◆地域の広報誌のコラム欄に排尿障害及びサポーターの啓発記事を投稿した

実践につなげるために今後必要だと思うこと

- ①常に排尿障害に対する視点を持つ
- ②コツコツと地道に実績を積む
- ③仲間をつくる
- ④排尿支援サポーターの啓発

☆介護支援専門員 北川やよい氏 (彦根市社会福祉協議会居宅介護支援事業所)

- ◆職場内で伝達研修を実施
- ◆排尿チェックシート等を活用し、ケアプラン作成時や業務に実際に取り入れた。(もう少し早く支援ができれば良かった)
- ◆専門医を受診し、排尿チェックシートを活用し、水分量、排尿量などをチェックし、内服薬の調整ができた。

実践につなげるために今後必要だと思うこと

- ①排尿障害についての基礎知識や診断・治療について学ぶ。
- ②利用者さんや家族からの相談に応じ、適切な相談先、支援へつなぐ。
- ③本人の望む生活に合わせたケアプランの立案、評価を行う。

☆地域包括支援センター保健師 澤田敬子氏 (彦根市地域包括支援センターすばる)

- ◆排尿チェックシートを使って、排尿パターンや困りごとを聞きとった(OABSS を使って、障害の実態を確認)
- ◆前回の面談より状況が悪くなっておられたので、中断していた受診再開を勧奨。

実践につなげるために今後必要だと思うこと

- ◎受診結果を聞いて、Dr と連携が必要であれば、生活面からの情報を提供する



令和5年9月開催!!
『湖北・湖東圏域 排尿支援員フォローアップ研修会』

グループワーク

会場は6グループ、オンラインは5グループに分かれて、情報交換、意見交換を行いました。

テーマ『排泄に関わる日頃の疑問や困りごと、他職種に相談したいこと』

日頃の排泄ケアに関する悩み、他職種やアドバイザーに聞きたいこと等を出し合いました。

「おむつフITTER」さんのいるグループもあり、事例についてディスカッションし解決方法を話し合われているところもありました。

会場では熱心で意見交換が行われ、久々にグループ内の声が聞きづらいくらいの賑わいがありました。



全体会

「日頃の疑問や困りごとを共有し、解決方法を見つけましょう！」

【アドバイザー】

◎つじ泌尿器科クリニック 辻裕氏（医師）

◎彦根市立病院 西村紀子氏（皮膚・排泄ケア認定看護師）



ここが知りたい！
聞きたい！
教えて！

時間の都合上、アドバイザーに聞きたいことは各グループ、一つに絞って発表していただきました。ごめんなさい(´;ω;`)



会場



ひとつひとつの質問に丁寧に回答やアドバイスをいただきました。



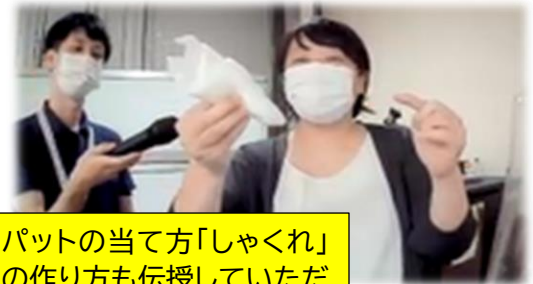
- ◆夜間の尿失禁、夜間の尿量の方が多い方に対する医学的な対応、ケアについて（環境整備）について
- ◇夜間の頻尿。男性の方の頻尿が多い。
- ◆トイレに行きたいと何度も行くが、出ずに睡眠がとれない。



- ◇男性の人に対してのパットの当て方を知りたい。
- ◆長時間パット交換しない場合の感染リスク、パットの使用方法。
- ◇尿意のある・なしの把握、おむつ内排泄にするのかどうか、そのタイミングに悩んでいる。観察すべき点やポイントは？おむつ内排泄への検討の仕方はどうするといいか。



- ◆トイレに立つのに精いっぱい。ズボンをずらしていると尿が間に合わない。
- ◇4人に一人が尿漏れ、男女の違いは？何歳からひどくなるのか。
- ◆脳梗塞の後、尿意が戻ってこない。
- ◇骨盤底筋群体操をどのようにすすめていけばよいか。



パットの当て方「しゃくれ」の作り方も伝授していただきました。

リハ職さんからもアドバイスをいただきました。



「排尿支援員」について知らなかった。相談するにはどうしたらよいでしょうか。



☆参加者の方々から現場での様々な悩みや日々のケアを聞かせていただくことが出来ました。
☆そして、辻先生、西村看護師さん、支援員のみなさんから、たくさんアドバイスをいただくことも出来ました。
専門職同志、顔の見える関係、日常的に相談し合える関係をつくり、誰もが気持ちよく排泄でき、本人の望む暮らしが維持できる湖東地域を目指しましょう。



<第62回アンケートより(一部)>



こんなこと思いました

1. 情報提供「滋賀県の排尿支援に対する取組」はいかがでしたか。

| 職種 | 意見 |
|---------|---|
| 介護支援専門員 | 排泄支援に対する取組や支援員の育成について初めて知ることが出来ました。 |
| | あまり良く知らなかった。 |
| | 今後も継続して取組みの情報が欲しいです |
| 介護職 | もっとこの取組みが広がれば良いと思います。 |
| 看護師 | 排尿支援員の存在を知りませんでした。地域との連携を大事にして日々の看護に繋げていけたらと思います。 |
| | 排尿についての困りごとは多岐にわたります。この取組みによって、認識が高まると思います。 |
| | 排尿支援の取組みがなされていることを知らなかったため、知ることができよかったです。病院と地域と繋がりをもち取組みたいと思いました。 |
| | 滋賀県の意識が分かった。 |
| リハ職 | いろんな角度からの排尿支援について聞くことができよかったです。 |
| 相談員 | 排泄に関する取組み、色々と工夫しておられることが知れてよかったです。 |
| 保健師 | この圏域で県のモデルが取り組まれていることを知ってもらう良い機会になったと思う。 |
| | とてもわかりやすかった。 |
| 不明 | あることを知りませんでした。 |

2. 話題提供「排尿支援員の活動内容の報告」はいかがでしたか。

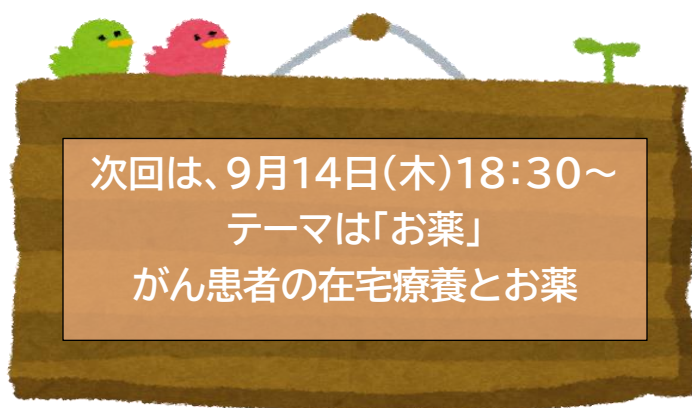
| 職種 | 意見 |
|---------|---|
| 介護支援専門員 | それぞれの専門分野からの関わりの中で出来る取組みをされていて勉強になりました。 |
| | 他の様々な専門職からのケース報告があれば有難いです。 |
| 介護職員 | 事例がわかりやすかった。参考になった。 |
| 看護師 | 参考になります。 |
| | 現場の声が聞いてわかりやすかったです。 |
| | 具体的な活動について紹介していただき理解できた。 |
| 相談員 | 今後のケアにつなげていける内容もあり勉強になりました。 |
| 地域包括 | 現場の方たちの生の声を聞いて良かった。 |
| 保健師 | それぞれの支援員が講座終了後に何らかの取組みをされていたことが分かった。9月のフォローアップ研修の参加につながるとよいと思います。 |
| | 様々な職種での活動を聞いて勉強になった。ケアチームで支援できると良いと思う。 |



3. 全体会(質疑応答)はいかがでしたか。

| 職種 | 意見 |
|---------|---|
| 介護支援専門員 | 多くの疑問を聞くことで新たな視点を持つことが出来ました。 |
| | 各グループの質問、相談に対して専門性のあるアドバイスをいただき大変参考になりました。 |
| | 時間が足りなかった。 |
| | マスク着用でのグループワークの声の聞き取りに課題があると思います。 |
| 介護職員 | 参考になる意見が多かった。 |
| | 排尿を頻繁に行かれる方について質問できたので良かったです。 |
| 看護師 | わかりやすかったです。 |
| | 皆さんの困りごとは、共通していることが多いと感じました。 |
| | 辻先生や西村さんの解説がとても分かり易かった。両面パットの使い方が良くわかりました。 |
| 地域包括 | 仕方がないことだが、グループワークの時間が足りなかった。 |
| 保健師 | 日頃疑問に思っていることや悩みを共有でき、アドバイスいただくことができとてもよかった。 |
| | 一つ一つの質問に丁寧に答えていただき、よく理解できましたが、Q&Aという形で情報の森にアップするのは難しいですね。 |
| | 質問に対して丁寧に答えていただき参考になった。 |
| 不明 | 新たにおむつの当て方がわかり勉強になりました。 |

ご意見、ご感想ありがとうございました。



ホームページ「在宅医療福祉情報の森」で次回研究会の情報・過去の開催内容をご覧くださいます。

在宅医療福祉情報の森



で検索。

【研究会に関するお問い合わせ】 ことう地域チームケア研究会事務局

- ◆(社)彦根愛知犬上介護保険事業者協議会 TEL 49-2455 E-mail:info@gen-ai-ken-kaigo.jp)
- ◆彦根市高齢福祉推進課(くすのきセンター) TEL 24-0828